

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-169009

(P2005-169009A)

(43) 公開日 平成17年6月30日(2005.6.30)

(51) Int.Cl.⁷

A61B 1/00

A61B 1/04

G02B 23/24

F I

A61B 1/00

A61B 1/04

G02B 23/24

300Y

372

A

テーマコード (参考)

2H040

4C061

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2003-417076 (P2003-417076)

(22) 出願日 平成15年12月15日 (2003.12.15)

(71) 出願人 000000376

オリンパス株式会社

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号

(74) 代理人 100076233

弁理士 伊藤 進

(72) 発明者 森山 宏樹

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オ

リンパス株式会社内

(72) 発明者 高瀬 精介

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オ

リンパス株式会社内

(72) 発明者 宮城 正明

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オ

リンパス株式会社内

Fターム(参考) 2H040 BA01 DA12 DA18 GA02

最終頁に続く

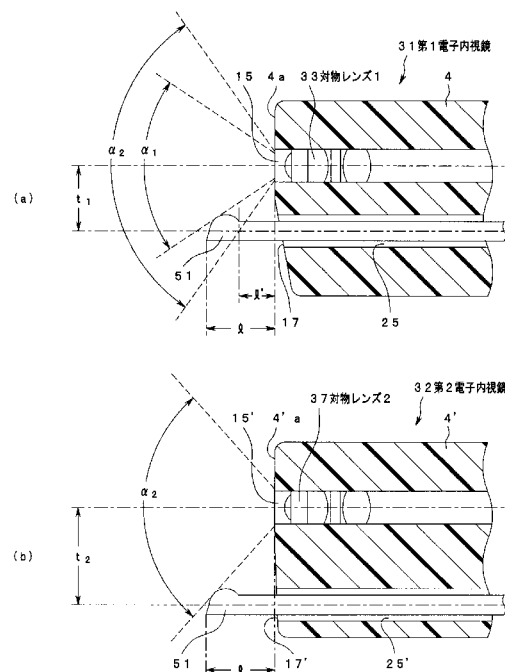
(54) 【発明の名称】 内視鏡システム、及び内視鏡

(57) 【要約】

【課題】 所定の視野角を有する内視鏡装置と広角内視鏡装置を共に、術者が同一感覚により操作可能な内視鏡システムが求められている。

【解決手段】 先端面に観察窓15と処置具チャンネル開口17とを有する挿入部2と、挿入部2の基端に設けた操作部3を有する内視鏡において、観察窓15に所定の視野角の第1の対物光学系33が設けられ、この観察窓15から所定の間隔の位置に処置具チャンネル開口17が設けられた第1の内視鏡31と、第1の対物光学系33の視野角よりも広い視野角の第2の対物光学系37を観察窓15'に設け、この観察窓15'から第1の内視鏡31の観察窓15と処置具チャンネル開口17との間隔の位置よりも広い間隔の位置に処置具チャンネル開口17'が設けられた第2の内視鏡32とからなる内視鏡システム。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

内視鏡を用いて観察部位を観察及び処置する内視鏡システムにおいて、挿入部の先端部における観察窓に所定の視野角を有する第 1 の対物光学系が設けられ、この観察窓から所定の間隔の位置に処置具チャンネル開口が設けられた第 1 の内視鏡と、挿入部の先端部における観察窓に前記第 1 の対物光学系の視野角よりも広い視野角を有する第 2 の対物光学系が設けられ、この第 2 の対物光学系が設けられた観察窓から、前記第 1 の内視鏡の観察窓と処置具チャンネル開口との間隔よりも広い間隔の位置に処置具チャンネル開口が設けられた第 2 の内視鏡と、
を備えたことを特徴とする内視鏡システム。

10

【請求項 2】

被検体内に挿入する挿入部の先端部における観察窓に所定の視野角を有する第 1 の対物光学系が設けられた第 1 の内視鏡と、被検体内に挿入する挿入部の先端部における観察窓に前記第 1 の対物光学系の視野角と異なる視野角を有する第 2 の対物光学系が設けられた第 2 の内視鏡とからなり、前記第 1 と第 2 の内視鏡のそれぞれの処置具チャンネル開口から突出される処置具の突出量が略同等の状態において、

前記第 1 の対物光学系と第 2 の対物光学系のそれぞれの視野角内にそれぞれの処置具が入り込むように、前記第 1 と第 2 の内視鏡それぞれの処置具チャンネル開口と観察窓との間隔の位置を設定したことを特徴とする内視鏡システム。

【請求項 3】

前記第 2 の内視鏡の第 2 の対物光学系の視野角は、前記第 1 の内視鏡の第 1 の対物光学系の視野角よりも広く、前記第 2 の内視鏡の観察窓と処置具チャンネル開口の間隔は、前記第 1 の内視鏡の観察窓と処置具チャンネル開口の間隔よりも広くしたことを特徴とする請求項 2 記載の内視鏡システム。

20

【請求項 4】

挿入部の先端部に少なくとも所定の視野角を有する対物光学系と処置具を挿通する処置具チャンネルの開口とが設けられた内視鏡であって、

前記先端部における前記処置具チャンネルの開口と前記対物光学系との間隔を、前記内視鏡よりも視野角が狭い対物光学系を有する内視鏡の先端部における処置具チャンネルと対物光学系との間隔よりも大きく設定したことを特徴する内視鏡。

30

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、挿入部の先端部における観察窓に視野角の異なる対物光学系を配置した内視鏡において、対物光学系の視野角に応じて、処置具チャンネル開口の設置位置を異ならせた内視鏡を備えた内視鏡システムに関する。

【背景技術】**【0002】**

近年、医療分野において、先端に少なくとも、観察窓、照明窓、処置具チャンネル開口が設けられた長尺な挿入部と、この挿入部の基端に設けられた操作部とからなる内視鏡により体腔内の臓器の観察及び処置を行う内視鏡装置が用いられている。又、この内視鏡装置は、工業分野においてもパイプ内の観察等に用いられている。

40

【0003】

この内視鏡装置の挿入部は、前記観察窓、照明窓、処置具チャンネル開口が設けられる先端部と、この先端部の基端に連設された湾曲部と、この湾曲部の基端に連設され、かつ前記操作部の先端に連設された軟性な可撓管部とからなる。又、前記挿入部には、イメージガイド、ライトガイド、処置具チャンネルが設けられている。前記イメージガイドの先端は、前記観察窓に設けられた対物光学系に配置されている。前記ライトガイドの先端は、前記照明窓に設けられた照明光学系に配置されている。前記処置具チャンネルの先端は、前記処置具チャンネル開口に連通している。

50

【 0 0 0 4 】

前記内視鏡装置の操作部には、湾曲操作ノブ、接眼部、処置具挿入孔、ユニバーサルコードが設けられている。前記湾曲操作ノブは、前記挿入部の湾曲部との間に設けられている湾曲ワイヤを牽引操作して湾曲部を湾曲操作する。前記接眼部は、前記イメージガイドの基端に接眼光学系が配置されて、術者が観察部位像を眼視する。前記処置具挿入孔は、前記処置具チャンネルの基端に連通しており、処置具が挿入される。前記ユニバーサルコードは、前記ライトガイドが内蔵され、光源装置に接続される。

【 0 0 0 5 】

なお、前記観察窓の対物光学系の結像位置に固体撮像素子を設け、この固体撮像素子を駆動させ、生成された撮像信号を送受信する信号ケーブルを前記イメージガイドに代えて設けた内視鏡装置もある。 10

【 0 0 0 6 】

このような内視鏡装置は、挿入部の湾曲部を管腔内の形状に応じて湾曲操作させながら挿入し、先端部の照明窓からの照明光により照明された観察部位からの反射光を観察窓に取り込み、イメージガイドにより伝送されて操作部の接眼部に表示される観察部位像を術者が観察する。

【 0 0 0 7 】

前記挿入部の先端部に設けられる観察窓の対物光学系の視野角は、観察部位により異なる、例えば、大腸囊の裏側等の観察しにくい病变部を観察しやすくするために広角な視野角の対物光学系が用いられる。又、観察部位の形状と大きさにより、湾曲部の湾曲角度が制限される場合は、例えば、観察部位の空間が広く湾曲部の湾曲角度は大きく取れる観察部位の観察に用いる内視鏡の対物光学系の視野角はそれほど広くする必要はなく、観察部位の空間が比較的狭く湾曲部の湾曲角度が小さくなる観察部位の観察に用いる内視鏡の対物光学系の視野角を広角にして、広範囲な観察部位像が得られるようにした広角内視鏡装置も提案されている（例えば、特許文献 1 参照）。 20

【特許文献 1】特開平 4 - 1 0 2 4 3 2 号公報。

【 発明の開示 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 8 】

従来、観察部位である管腔内の複雑な形状の裏側、例えば、大腸囊の裏側等の観察しにくい病变を観察しやすくするために、前記特許文献 1 に提案されているような、広角な対物光学系を観察窓に配置した広角内視鏡装置が用いられている。 30

【 0 0 0 9 】

一方、内視鏡装置による被検対象部位（観察部位）の観察下において、前記処置具チャンネル開口から処置具を観察部位へ突出させて、生体組織の切開採取等の各種処置が行われる。この処置具による生体組織の各種処置において、術者は、挿入部の先端部の観察窓から取り込み接眼部において観察している観察像、またはモニタに表示される観察画像（以下、総称して観察映像と称する）に映し出される処置具の位置により観察部位と処置具の位置関係を把握し、処置具を操作している。

【 0 0 1 0 】

実際の観察部位と処置具との位置関係が同じ場合は、前記挿入部の先端部の観察窓に所定の視野角（例えば、120度～150度）の対物光学系を設けた所定の視野角を有する内視鏡装置の場合と、前記挿入部の先端部の観察窓に、前記所定の視野角を有する内視鏡装置の視野角よりも広角な視野角（例えば、151度以上）の対物光学系を設けた内視鏡装置（以下、広角内視鏡装置と称する）の場合とでは、観察映像内における観察部位と処置具との位置関係は互いに異なる。 40

【 0 0 1 1 】

すなわち、例えば、前記所定の視野角を有する内視鏡装置と、前記広角内視鏡装置のそれぞれの挿入部の先端部における観察窓と処置具との間の間隔、すなわち位置関係が同じである場合、それぞれの処置具チャンネル開口から突出させた処置具が観察窓の対物光学 50

系の視野角内に入り込むまでの突出量は、前記所定の視野角を有する内視鏡装置に比して、前記広角内視鏡装置の突出量は少なくなる。つまり、広角内視鏡装置は、観察窓の対物光学系が広角のために、処置具チャンネル開口から突出させた処置具の突出量が少ない状態において、広角対物光学系の視野角内に入り込むことになる。

【0012】

このため術者は、広角内視鏡装置の観察映像の下で、処置具を操作する際に、前記処置具チャンネル開口からわずかに突出した位置において、観察映像中に処置具が現れる。このために、所定の視野角を有する内視鏡装置の場合と同様の位置まで処置具が突出されたと勘違いしてしまう可能性がある。よって、所定の視野角を有する内視鏡装置と、広角内視鏡装置の観察部位像における処置具の位置関係が異なることにより術者に違和感を与えてしまうという課題がある。

10

【0013】

又、内視鏡装置の観察窓に設ける対物光学系は、一般的に固定焦点の光学系が用いられる。このために、特に、広角対物光学系は、視野角の周辺近傍は、視野角中央部分に比して、焦点が若干合わない現象が生じる。このために、前記広角内視鏡装置の広角対物光学系の視野角内に突入された直後の処置具が一時的に不鮮明となり、術者に不快感を与える可能性がある。

【0014】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたもので、術者が所定の視野角を有する内視鏡装置と広角内視鏡装置を共に、同一感覚により操作可能な内視鏡システムを提供すること

20

【課題を解決するための手段】

【0015】

本発明の内視鏡システムは、内視鏡を用いて観察部位を観察及び処置する内視鏡システムにおいて、挿入部3の先端部4における観察窓15に所定の視野角を有する第1の対物光学系33が設けられ、この観察窓15から所定の間隔の位置に処置具チャンネル開口17が設けられた第1の内視鏡31と、挿入部3の先端部4'における観察窓15'に前記第1の対物光学系33の視野角よりも広い視野角を有する第2の対物光学系37が設けられ、この第2の対物光学系33が設けられた観察窓15'から、前記第1の内視鏡31の観察窓15と処置具チャンネル開口17との間隔よりも広い間隔の位置に処置具チャンネル開口17'が設けられた第2の内視鏡32と、を備えたことを特徴としている。

30

【0016】

本発明の内視鏡システムは、被検体内に挿入する挿入部3の先端部4における観察窓15に所定の視野角を有する第1の対物光学系33が設けられた第1の内視鏡31と、被検体内に挿入する挿入部3の先端部4'における観察窓15'に前記第1の対物光学系33の視野角と異なる視野角を有する第2の対物光学系37が設けられた第2の内視鏡32とからなり、前記第1と第2の内視鏡31、32のそれぞれの処置具チャンネル開口17、17'から突出される処置具51の突出量が略同等の状態において、前記第1の対物光学系33と第2の対物光学系37のそれぞれの視野角内にそれぞれの処置具51が入り込むように、前記第1と第2の内視鏡31、32それぞれの処置具チャンネル開口17、17'と観察窓15、15'との間隔の位置を設定したことを特徴とする。

40

【0017】

本発明の内視鏡システムの前記第2の内視鏡32の第2の対物光学系37の視野角は、前記第1の内視鏡31の第1の対物光学系33の視野角よりも広く、前記第2の内視鏡32の観察窓15'と処置具チャンネル開口17'の間隔は、前記第1の内視鏡31の観察窓15と処置具チャンネル開口17の間隔よりも広くしたことを特徴とする。

【0018】

また、本発明の内視鏡は、挿入部の先端部に少なくとも所定の視野角を有する対物光学系と処置具を挿通する処置具チャンネルの開口とが設けられた内視鏡であって、前記先端部における前記処置具チャンネルの開口と前記対物光学系との間隔を、前記内視鏡よりも

50

視野角が狭い対物光学系を有する内視鏡の先端部における処置具チャンネルと対物光学系との間隔よりも大きく設定したことを特徴する。

【 0 0 1 9 】

本発明の内視鏡システムは、所定の視野角を有する内視鏡と、この所定の視野角を有する内視鏡よりも広い視野角を有する広角視野角の内視鏡それぞれにおいて、観察部位と処置具との実際の位置関係が互いに同じ場合に、観察映像中における観察部位と処置具との位置関係をそれぞれ所定の視野角を有する内視鏡とで互いに略同一の位置関係とすることが出来る。

【 発明の効果 】

【 0 0 2 0 】

本発明の内視鏡システムは、所定視野角内視鏡と広角視野角内視鏡により、それぞれ観察される観察映像中における処置具から、実際の観察部位と処置具の位置関係が術者に略同一感覚で認識することができるために、術者に違和感を与えることを防止できるようになる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 2 1 】

以下、本発明の内視鏡システムの実施形態について、図 1 乃至図 5 を用いて説明する。図 1 は本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡の挿入部に設けられる観察窓と処置具チャンネル開口の関係を説明する説明図、図 2 は本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡装置の概略構成を示すブロック図、図 3 は本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡の挿入部に設けられる先端部の構成を示す正面図、図 4 は本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡の挿入部に設けられる先端部の構成を示す断面図、図 5 は本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡装置の構成を示すブロック図である。

【 0 0 2 2 】

最初に、本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡装置の概略構成について図 2 を用いて説明する。内視鏡装置は、内視鏡 1、光源装置 9、ビデオプロセッサ 10、モニター 11 からなる。内視鏡 1 は、先端部 4、湾曲部 5、可撓部 6 からなる挿入部 2 と、この挿入部 2 の基端に連設された操作部 3 と、この操作部 3 から延出したユニバーサルコード 7 と、このユニバーサルコード 7 の先端に設けられた内視鏡コネクタ 8 から構成されている。

【 0 0 2 3 】

この内視鏡 1 の先端部 4 は、図示していないが照明窓、観察窓、処置具チャンネル開口、送水送気開口等が設けられている。この先端部 4 の観察窓には、観察部位からの反射光を取り込む対物光学系が設けられ、その対物光学系の結像位置に固体撮像素子が設けられている。この先端部 4 に連設された湾曲部 5 は、複数の湾曲駒が配置され、操作部 3 に設けられている湾曲操作入力手段の一例としての湾曲操作ノブから延出されている湾曲ワイヤにより上下左右に湾曲する。この湾曲部 5 に連設されている可撓部 6 は、可撓性部材により長尺に形成されている。

【 0 0 2 4 】

前記先端部 4、湾曲部 5、および可撓部 6 には、ライトガイド、信号ケーブル、処置具チャンネル、送水送気チャンネルが設けられている。前記ライトガイドの先端は、前記先端部 4 の照明窓に配置されている。前記信号ケーブルの先端は、観察窓に設けられた固体撮像素子に接続されている。前記処置具チャンネルの先端は、前記先端部 4 の処置具チャンネル開口に配置されている。前記送水送気チャンネルの先端は、前記先端部 4 の送水送気開口に配置されている。

【 0 0 2 5 】

前記ライトガイドの基端は、前記操作部 3 からユニバーサルコード 7、内視鏡コネクタ 8 を介して、前記光源装置 9 に接続される。前記信号ケーブルの基端は、前記操作部 3 からユニバーサルコード 7 と内視鏡コネクタ 8 を介して、ビデオプロセッサ 10 に接続されている。前記処置具チャンネルの基端は、前記操作部 3 に設けられた処置具挿入孔に接続

10

20

30

40

50

されている。前記送水送気チャンネルの基端は、前記操作部 3 に設けられた送水送気チャンネル口金に接続され、操作部 3 に設けられた送水送気スイッチにより送水送気される。

【0026】

前記光源装置 9 は、照明ランプとこの照明ランプの点灯制御回路を有しており、内視鏡コネクタ 8 のライトガイドの基端に照明光を投射する。前記ビデオプロセッサ 10 は、前記先端部 4 に設けられた固体撮像素子を駆動させると共に、固体撮像素子によって得られた観察部位の撮像信号を取り込み、その撮像信号に対して所定の信号処理を行い映像信号を生成する。前記モニター 11 は、前記ビデオプロセッサ 10 において生成された映像信号を基に前記固体撮像素子によって撮像された観察部位の映像（以下、観察映像と称する）を内視鏡画像表示領域 11a に表示する。なお、このモニター 11 には、前記観察映像のほかに、例えば、患者の氏名、年齢、性別、内視鏡観察日時等の情報も同時に患者情報表示領域 11b を表示する。

10

【0027】

このような内視鏡装置の挿入部 2 の先端部 4 の構成について、図 3 と図 4 を用いて説明する。なお、図 3 は前記先端部 4 の先端面を正面から見た正面図であり、図 4 は図 3 の図中の切断線 X - X により先端部 4 を軸方向に切断した断面図である。

【0028】

前記先端部 4 の先端面 4a には、図 3 に示すように、観察窓 15、その観察窓 15 の周囲に略等間隔に配置された複数の照明窓 16a、16b、16c、処置具チャンネル開口 17、前記観察窓 15 に対して送水送気する送水送気ノズル 18、及び前方送水開口 19 が設けられている。

20

【0029】

前記先端部 4 は、先端キャップ 4b と円筒形状の外装 40c とからなり内部の構成は、図 4 に示すように、前記先端キャップ 4b の先端面 40a に設けられた観察窓 15 には、視野角の複数の光学レンズからなる対物光学系 21 が配置されている。この対物光学系 21 の結像位置には、固体撮像素子 22 が配置されている。この固体撮像素子 22 の後方には、固体撮像素子 22 を駆動制御したり、光電変換生成された撮像信号を取り込む回路機能を有する回路基板 23 が接続されている。この回路基板 23 には、信号ケーブル 24 が接続され、この信号ケーブル 24 の基端は、前記ビデオプロセッサ 10 に接続されている。

30

【0030】

前記先端キャップ 4b の先端面 4a に設けられた処置具チャンネル開口 17 には、略円筒形状に形成された処置具挿通筒 25 を介して、処置具チャンネル 26 に連通している。又、前記先端部 4 の先端面 4a に設けられている照明窓 16a ~ 16c には、図示していない照明レンズが設けられ、その照明レンズにライトガイドの先端が配置されている。更に、前記送水送気ノズル 18 と前記前方送水開口 19 には、図示していないが、各々送水送気チャンネルと前方送気チャンネルが連通されている。

【0031】

このような構成の先端部 4 を有す内視鏡 1 を用いた、本発明に係る内視鏡システムについて図 5 を用いて説明する。この内視鏡システムは、前記内視鏡 1 に相当する第 1 の電子内視鏡 31 と第 2 の電子内視鏡 32、前記ビデオプロセッサ（以下、VPU と称する）10、モニター 11 からなっている。なお、第 1 と第 2 の電子内視鏡 31、32 から観察部位に投射する照明光を生成する光源装置は図示していない。

40

【0032】

前記第 1 の電子内視鏡 31 は、一般的な視野角（120度 ~ 150度）の複数のレンズからなる第 1 の対物光学系 33、この第 1 の対物光学系 33 の結像位置に配置され、観察部位を撮像する第 1 の固体撮像素子（以下、第 1 の CCD と称する）34、この第 1 の CCD 34 により生成された撮像信号の相関二重サンプリング処理を行う CDS 回路 35、この CDS 回路 35 において処理されたアナログ撮像信号をデジタル撮像信号に変換するアナログ / デジタル変換回路（以下、A / D 回路と称する）36 からなっている。

50

【 0 0 3 3 】

前記第 2 の電子内視鏡 3 2 は、前記第 1 の電子内視鏡 1 1 の第 1 の対物光学系 3 3 よりも大きい視野角 (1 5 1 度以上) 2 (1 < 2) の複数のレンズからなる第 2 の対物光学系 3 7、この第 2 の対物光学系 3 7 の結像位置に配置され、観察部位を撮像する第 2 の固体撮像素子 (以下、第 2 の C C D と称する) 3 8、この第 2 の C C D 3 8 により生成された撮像信号の相関二重サンプリング処理を行う C D S 回路 3 9、この C D S 回路 3 9 において処理されたアナログ撮像信号をデジタル撮像信号に変換するアナログ / デジタル変換回路 (以下、A / D 回路と称する) 4 0 からなっている。

【 0 0 3 4 】

前記 V P U 1 0 は、分離処理回路 (以下、S / P 回路と称する) 4 1、デジタル信号処理回路 (以下、D S P 回路と称する) 4 2、文字情報多重回路 4 3、文字情報入力回路 4 4、デジタル / アナログ信号変換回路 (以下、D / A 回路と称する) 4 5、画像表示信号回路 4 6、基準信号発生回路 (以下、S S G と称する) 4 7、タイミング信号発生回路 (以下、T / G 回路と称する) 4 8、表示画像切換入力回路 4 9 から構成される。 10

【 0 0 3 5 】

前記 S / P 回路 4 1 は、前記第 1 の電子内視鏡 3 1 の A / D 回路 3 6 からのデジタル撮像信号、又は前記第 2 の電子内視鏡 3 2 の A / D 回路 4 0 からのデジタル撮像信号の輝度信号と色信号等を分離処理する。前記 D S P 4 2 は、前記 S / P 回路 4 1 において分離された輝度信号と色信号に対して、所定のデジタル信号処理を行うと共に、ホワイトバランス、補正などの補正処理を行い、デジタル内視鏡画像信号を生成する。 20

【 0 0 3 6 】

前記文字情報重畳回路 4 3 は、前記 D S P 回路 4 2 において信号処理されたデジタル内視鏡画像信号に、例えば、患者の氏名、年齢、性別、内視鏡観察日時などの患者情報を示す文字情報信号を重畳させる。この文字情報重畳回路 4 3 において、重畳される文字情報信号は、前記文字情報入力回路 4 4 において、図示していない、キーボードから術者により入力された前記患者情報により生成される。この文字情報重畳回路 4 3 において、文字情報が重畳されたデジタル内視鏡画像信号は、前記 D / A 回路 4 5 において、アナログ内視鏡画像信号に変換されて画像表示信号回路 4 6 へ出力される。なお、前記文字情報重畳回路 4 3 において、生成された文字情報信号が重畳されたデジタル内視鏡画像信号は、V P U 1 3 に着脱可能に設けたメモリ 3 0 に記録する。 30

【 0 0 3 7 】

前記画像表示信号回路 4 6 は、前記 D / A 回路 4 5 から供給されたアナログ内視鏡画像信号を基に、モニター 1 1 に観察映像と患者情報を表示するための映像信号に変換生成する。この画像表示信号回路 4 6 は、前記表示画像切換入力回路 4 9 からの制御信号により、前記モニター 1 1 に表示させる観察映像と患者情報の表示位置、表示画像の大きさ等が変更設定される。前記表示画像切換入力回路 4 9 には、図示していないが、術者がモニター 1 1 に表示させる観察映像、患者情報の表示位置、表示画像の大きさ等の表示切換入力指示が可能となっている。

【 0 0 3 8 】

前記 S S G 回路 4 7 は、前記 S / P 回路 4 1、D S P 回路 4 2、文字情報重畳回路 4 3、D / A 回路 4 5、画像表示信号回路 4 6 の駆動を制御する基準信号を生成出力する。前記 T / G 回路 4 8 は、前記 S S G 回路 4 7 からの基準信号により、前記第 1 と第 2 の電子内視鏡 3 1、3 2 のそれぞれの第 1 と第 2 の C C D 3 4、3 8 の駆動制御のタイミング信号を生成する。 40

【 0 0 3 9 】

なお、前記第 1 の電子内視鏡 3 1 と第 2 の電子内視鏡 3 2 は、前記 V P U 1 0 に必要に応じてコネクタなどを用いて接続され、或いは、前記 V P U 1 0 にコネクタにより常時接続され、図示していない切換スイッチにより接続切換が可能とする。

【 0 0 4 0 】

次に、前記第 1 と第 2 の電子内視鏡 3 1、3 2 のそれぞれの第 1 と第 2 の対物光学系 3 50

3, 37がそれぞれ配置される挿入部2の先端部4の構成について、図1を用いて説明する。なお、この図1は、先端部4における観察窓15に設けられる第1と第2の対物光学系33, 37と処置具チャンネル開口17の関係を模式的に示している。

【0041】

図1(a)は、前記第1の電子内視鏡31の先端部4を示している。この第1の内視鏡31の先端部4には、観察窓15、処置具チャンネル開口17、及び図示していない照明窓16a~16c、送水送気ノズル18、前方送水開口19が設けられている。この第1の電子内視鏡31の観察窓15には、前記視野角1の前記第1の対物光学系33が配置されている。この先端部4の観察窓15の中心軸と、処置具チャンネル開口17の中心軸とは、先端面において図中t1で示す間隔の位置関係となるように設けられている。この視野角1の第1の対物光学系33を設けた観察窓15と、この観察窓15から距離t1の位置に設けられた処置具チャンネル開口17との位置関係から、前記処置具チャンネル開口17から観察部位方向に挿通突出させた処置具51は、前記第1の対物光学系15の視野角1の範囲に突出させるには、図中の突出量lを越えて突出させる必要がある。この視野角1内に突出された処置具51は、観察窓15から観察でき、観察部位と処置具51の位置関係が把握できる。

10

【0042】

次に、この観察窓15と処置具チャンネル開口17とが同じの距離t1だけ離れた位置関係にあり、先端部4の観察窓15に、前記第1の対物レンズ系33の視野角1よりも広角な視野角2を有する第2の対物光学系37を装着して第2の内視鏡32とした場合、前記処置具チャンネル開口17から突出させた処置具51は、前記突出量lよりも遙かに少ない図中の突出量l' ($l > l'$)により視野角2の範囲に入り込むことになる。

20

【0043】

このように、第2の対物光学系37の広角な視野角2の範囲には、わずかな突出量l'により前記処置具51が入り込む。この視野角2に入り込んだ処置具51の突出量l'は、観察部位との位置関係から見ると十分な突出量ではない。

【0044】

そこで、図1(b)に示すように、前記第2の電子内視鏡32の先端部4'において、観察窓15'に前記視野角2の前記第2の対物光学系37を配置し、処置具チャンネル開口17'の中心軸を、この先端部4'の観察窓15'の中心軸から、図中t2 ($t1 < t2$)で示す位置に設ける。この視野角2の第2の対物光学系37を設けた観察窓15'と、この観察窓15'から距離t2の位置に設けられた処置具チャンネル開口17'との位置関係から、前記処置具チャンネル開口17'から観察部位方向に挿通突出させた処置具51は、前記第2の対物光学系37の視野角2の範囲に入り込ませるには、図中の突出量lを越えて突出させる必要がある。つまり、この第2の電子内視鏡32の処置具51を突出量l以上突出させることにより、第2の対物光学系37の広角視野角2の範囲に入り込ませることができる。

30

【0045】

すなわち、この第2の電子内視鏡32の処置具51を、図1(a)に示した第1の電子内視鏡31の処置具51と同じ突出量lの突出操作を行うとそれぞれの観察映像の中に処置具を確認できるようになる。これにより、術者は、第1と第2の電子内視鏡31, 32それぞれの処置具51の突出操作の感覚が略同じとなり、かつ、先端部4, 4'の先端面からの処置具51の突出量もほぼ同じであることから観察部位と処置具51との位置関係も略同等となる。

40

【0046】

以上説明したように、挿入部2の先端部4に設ける観察窓15と処置具チャンネル開口17の位置関係は、処置具チャンネル開口17から突出させる処置具51の突出量が略同等の状態において、前記観察窓15に設ける対物光学系33, 37の視野角に応じて設定することにより、術者は処置具51の操作感覚、観察部位と処置具との位置関係の違和感が解消できる。

50

【 0 0 4 7 】

ところで、前記第 1 と第 2 の電子内視鏡 3 1 , 3 2 の第 1 の C C D 3 4 と第 2 の C C D 3 8 の画素数、及びアスペクト比が同じとすると、前記視野角 1 の第 1 の対物光学系 3 3 と、この第 1 の対物光学系 3 3 の視野角 1 よりも広い視野角 2 を有する第 2 の対物光学系 3 7 それぞれによって第 1 と第 2 の C C D 3 4 , 3 8 に結像される観察部位像の範囲は異なる。

【 0 0 4 8 】

つまり、第 1 の電子内視鏡 3 1 により撮像して、モニター 1 1 の内視鏡画像表示領域 1 1 a に表示される観察部位の範囲に比して、第 2 の電子内視鏡 3 2 により撮像して、モニター 1 1 の同一の内視鏡画像表示領域 1 1 a に表示される観察部位の範囲は広くなる。しかし、この第 2 の電子内視鏡 3 2 により撮像されて、モニター 1 1 に表示されている広い範囲の観察部位の中の個々の観察部位は、前記第 1 の電子内視鏡 3 1 により撮像されてモニター 1 1 に表示されている観察部位の中の個々の観察部位に比較して小さい形状として表示されてしまう。かつ、広い観察部位の中の個々の観察部位の画像数が少ないために、不鮮明な画像として表示される可能性がある。

【 0 0 4 9 】

そこで、前記広角な視野角 2 を有する第 2 の対物光学系 3 7 を有する第 2 の電子内視鏡 3 2 の第 2 の C C D 3 8 には、前記第 1 の電子内視鏡 3 1 の第 1 の C C D 3 4 よりも画素数の多い、高画素 C C D を用いる。

【 0 0 5 0 】

この第 2 の電子内視鏡 3 2 の第 2 の C C D 3 8 を高画素化することにより、視野角 2 を有する第 2 の対物光学系 3 7 に基づいて、撮像された撮像信号からモニター 1 1 に表示される観察部位の映像（観察映像）の画素は、前記第 1 の電子内視鏡 3 1 に比して多いために、第 2 の電子内視鏡 3 2 の観察部位の映像全体と、その観察部位の映像の中の個々の観察部位の解像度の向上が可能となる。更に、その第 2 の電子内視鏡 3 2 の高画素の第 2 の C C D 3 8 により撮像生成された高画素の観察部位の画像から電子的にズーム処理を行い、モニター 1 1 にズーム観察部位の画像として表示しても高画素であるために解像度の劣化を抑制できる。

【 0 0 5 1 】

以上説明したように、視野角が広角な対物光学系を有する電子内視鏡は、高画素の C C D を用いることにより、広い撮影範囲の個々の観察部位と、電子的ズーム処理された際のズーム表示観察部位の画質劣化が抑制できる。

【 0 0 5 2 】

〔 付 記 〕

以上詳述した本発明の実施形態によれば、以下のごとき構成を得ることができる。

【 0 0 5 3 】

（付記 1） 内視鏡を用いて観察部位を観察及び処置する内視鏡システムにおいて、挿入部の先端部における観察窓に所定の視野角を有する第 1 の対物光学系が設けられ、この観察窓から所定の間隔の位置に前記処置具チャンネル開口が設けられた第 1 の内視鏡と、

挿入部の先端部における観察窓に前記第 1 の対物光学系の視野角よりも広い視野角を有する第 2 の対物光学系が設けられ、この第 2 の対物光学系が設けられた観察窓から、前記第 1 の内視鏡の観察窓と処置具チャンネル開口との間隔の位置よりも広い間隔の位置に処置具チャンネル開口が設けられた第 2 の内視鏡と、

を備えたことを特徴とする内視鏡システム。

【 0 0 5 4 】

（付記 2） 被検体内に挿入する挿入部の先端部における観察窓に所定の視野角を有する第 1 の対物光学系が設けられた第 1 の内視鏡と、被検体内に挿入する挿入部の先端部における観察窓に前記第 1 の対物光学系の視野角と異なる視野角を有する第 2 の対物光学系が設けられた第 2 の内視鏡とからなり、前記第 1 と第 2 の内視鏡のそれぞれの処置具チャ

10

20

30

40

50

ンネル開口から突出される処置具の突出量が略同等の状態において、

前記第１の対物光学系と第２の対物光学系のそれぞれの視野角内にそれぞれの処置具が入り込むように、前記第１と第２の内視鏡それぞれの処置具チャンネル開口と観察窓との間隔の位置を設定したことを特徴とする内視鏡システム。

【００５５】

（付記３） 前記第２の内視鏡の第２の対物光学系の視野角は、前記第１の内視鏡の第１の対物光学系の視野角よりも広く、前記第２の内視鏡の観察窓と処置具チャンネル開口の間隔は、前記第１の内視鏡の観察窓と処置具チャンネル開口の間隔よりも広くしたことを特徴とする請求項２記載の内視鏡システム。

【００５６】

（付記４） 前記第１と第２の対物光学系のそれぞれの結像位置に固体撮像素子が設けられた第１と第２の内視鏡において、前記第２の対物光学系の結像位置には、前記第１の対物光学系の結像位置に設けられた固体撮像素子よりも高画素の固体撮像素子を用いたことを特徴とする付記１乃至付記３のいずれかに記載の内視鏡システム。

【００５７】

（付記５） 挿入部の先端部に少なくとも所定の視野角を有する対物光学系と処置具を挿通する処置具チャンネルの開口とが設けられた内視鏡であって、

前記先端部における前記処置具チャンネルの開口と前記対物光学系との間隔を、前記内視鏡よりも視野角が狭い対物光学系を有する内視鏡の先端部における処置具チャンネルと対物光学系との間隔よりも大きく設定したことを特徴する内視鏡。

【００５８】

（付記６） 前記内視鏡は、この内視鏡よりも視野角が狭い対物光学系を有する内視鏡と同一の信号処理装置に接続可能であることを特徴とする付記５に記載の内視鏡。

【００５９】

（付記７） 挿入部の先端に少なくとも所定の視野角を有する対物光学系が設けられた内視鏡であって、この内視鏡よりも視野角の狭い対物光学系に用いた固体撮像素子よりも画素が多い固体撮像素子を用いたことを特徴とする内視鏡。

【図面の簡単な説明】

【００６０】

【図１】本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡の挿入部に設けられる観察窓と処置具チャンネル開口の関係を説明する説明図。 30

【図２】本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡装置の概略構成を示すブロック図。

【図３】本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡の挿入部に設けられる先端部の構成を示す正面図。

【図４】本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡の挿入部に設けられる先端部の構成を示す断面図。

【図５】本発明に係る内視鏡システムに用いる内視鏡装置の構成を示すブロック図。

【符号の説明】

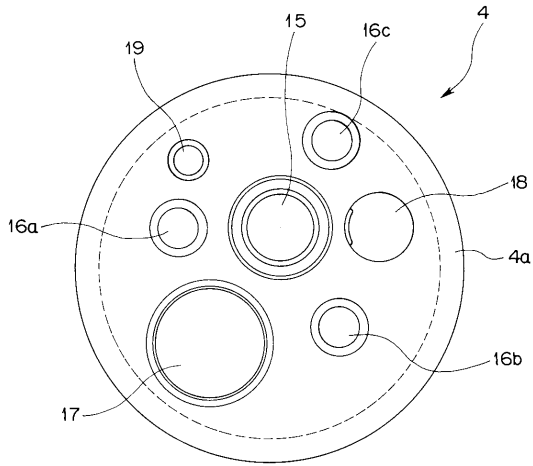
【００６１】

- １ 内視鏡
- ２ 挿入部
- ３ 操作部
- ４ 先端部
- １５ 観察窓
- １７ 処置具チャンネル開口
- ２５ 処置具チャンネル
- ３１ 第１の電子内視鏡
- ３２ 第２の電子内視鏡
- ３３ 第１の対物光学系
- ３７ 第２の対物光学系

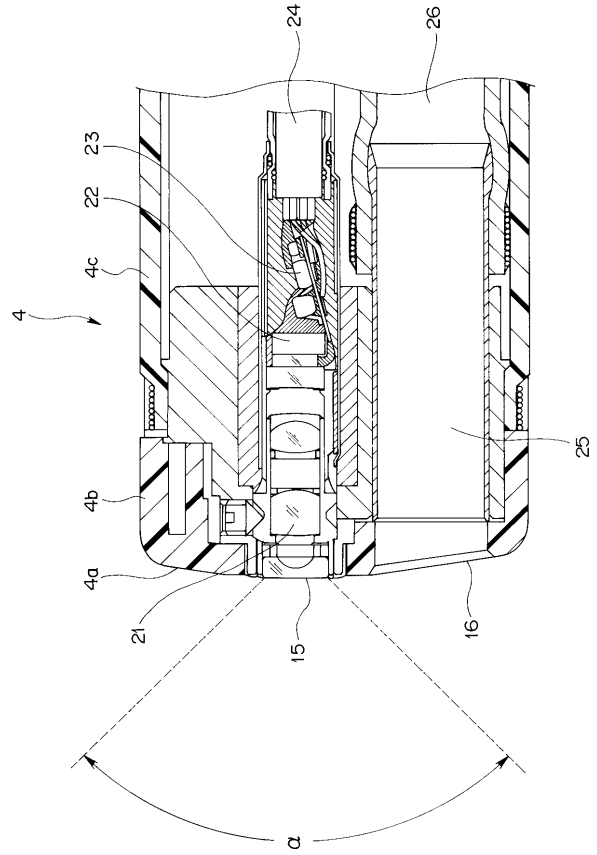
40

50

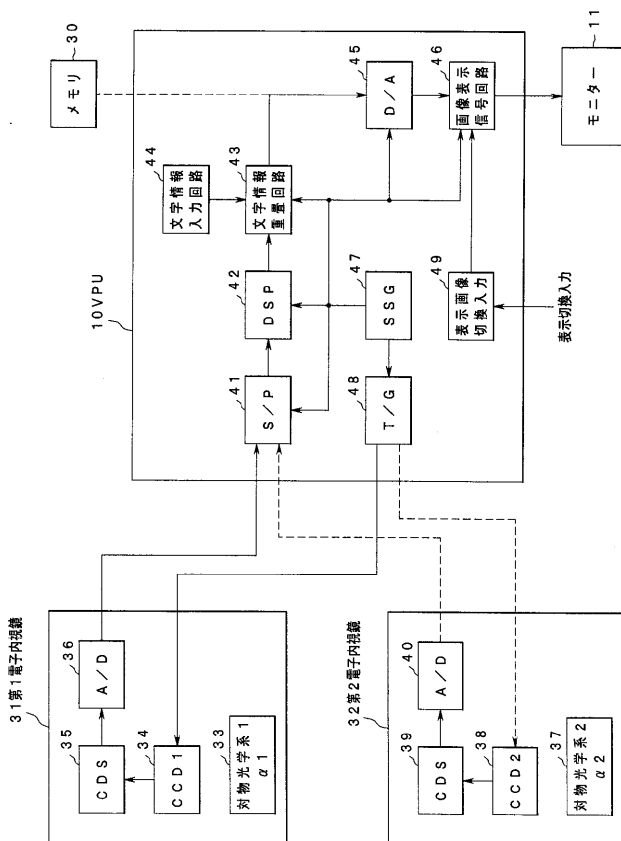
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

Fターム(参考) 4C061 CC06 FF40 FF43 HH21 JJ11 LL02

专利名称(译)	内窥镜系统和内窥镜		
公开(公告)号	JP2005169009A	公开(公告)日	2005-06-30
申请号	JP2003417076	申请日	2003-12-15
[标]申请(专利权)人(译)	奥林巴斯株式会社		
申请(专利权)人(译)	奥林巴斯公司		
[标]发明人	森山宏樹 高瀬精介 宮城正明		
发明人	森山 宏樹 高瀬 精介 宮城 正明		
IPC分类号	G02B23/24 A61B1/00 A61B1/012 A61B1/018 A61B1/04		
CPC分类号	A61B1/018 A61B1/00181 A61B1/00188		
FI分类号	A61B1/00.300.Y A61B1/04.372 G02B23/24.A A61B1/00.620 A61B1/00.715 A61B1/00.731 A61B1/018.513 A61B1/05		
F-TERM分类号	2H040/BA01 2H040/DA12 2H040/DA18 2H040/GA02 4C061/CC06 4C061/FF40 4C061/FF43 4C061/HH21 4C061/JJ11 4C061/LL02 4C161/CC06 4C161/FF40 4C161/FF43 4C161/HH21 4C161/JJ11 4C161/LL02		
代理人(译)	伊藤 进		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

解决的问题：提供一种内窥镜系统，其中操作者可以以相同的感操作具有预定视角的内窥镜设备和广角内窥镜设备。 解决方案：在具有插入部分2的内窥镜中，插入部分2具有观察窗口15和在其远端表面上的治疗仪器通道开口17，并且操作部分3设置在插入部分2的基端，在观察窗口中提供了预定的视野 第一物镜光学系统33设置有角部第一物镜光学系统33，并且处置器械通道开口17设置在距观察窗15和第一物镜光学系统33预定距离的位置处。 在观察窗15中设置有具有比该观察角宽的视角的第二物镜光学系统37，并且第一内窥镜31的观察窗15与处置器械通道开口17之间的距离从观察窗15开始增大。 一种包括第二内窥镜32的内窥镜系统，其中，在比该位置宽的位置处设置有处理工具通道开口17。

